

趣意書

「文理融合型教育の実現を考えるー高大接続・大大接続の視点からー」

日本では、2016年に「第5期科学技術基本計画」での政策目標として、仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会を意味する「ソサエティ5.0」の推進が掲げられた。この「ソサエティ5.0」の源流は多くの国が国家規模で改革を進めてきた「デジタルな世界と物理的な世界と人間が融合する環境」と定義された「第4次産業革命」に行きつく。そして第4次産業革命の進展により、AI、自動運転、クラウド技術、VR等をはじめとする技術革新が現在進捗し、産業構造や労働市場および社会にも変化をもたらされている。同時に、この変化は大学教育の内容や在り方にも影響を及ぼすと考えられる。事実、イノベーションという用語が新たに加えられたSTI (Science, Technology, Innovation)政策が多くの先進諸国において進展している。さらに、STEM教育重視の政策が唱えられる中、2021年には「第6期科学技術基本計画」において、「ソサエティ5.0」が掲げる人間中心の社会が実装されるうえで、人文・社会科学とSTEM分野の融合、すなわち文理融合という概念が重要であることが初めて示された。言い換えれば、大学教育における「文理融合型教育」の進展が期待されている状況にある。

現在の日本での文理融合型教育は、「ソサエティ5.0」実現のために、研究と教育との両輪を目指すという特徴がみられる。具体的には、大学院レベルでのSTEMと人文・社会系による文理融合型プログラムの構築が「博士課程教育リーディングプログラム」を通じて進められてきた。また学士課程教育段階では、昨年のIDEセミナーで取り上げた「データサイエンス教育」も文理融合型教育の側面を強く持っている。このように近年、大学・大学院レベルでの文理融合型教育が実装され、さらなる展開を期待する声もイノベーションの創出という点からも大きい。しかし、文理融合型教育を進捗させていく上での課題も多い。代表的な課題の一つに大学進学にあたっての高校段階での「文理選択」という制度がある。また、実際の大学教育において、文理融合型教育を専門分野で進展させていくのか、大学院も含めて共通教養教育で進めていくべきなのか、あるいは研究と教育の両面を重視して大学院で実現していくべきなのか、そのモデルは模索状態にある。

本セミナーでは、高校段階、大学段階、大学院段階という3つの教育課程段階を軸に、文理融合型教育の実現に向けて、教育面・研究面での課題や可能性について実現の方法を検討する。文理融合型教育を促進する鍵は何か、中等教育での文理選択という構造的な課題を踏まえつつ議論していきたい。